このたびは数あるスピーカーの中から GENELEC 8020B をお選びいただきありがとうございました。

製品の概要

GENELEC 8020B は極めてコンパクトなバイアンプの 2 ウェイ・アクティブ・モニター・スピーカーで、次のような用途向けに設計されています：ニアフィールド・モニタリング、中継車、放送、TV 調整室、サラウンド・サウンド・システム、ホーム・スタジオ、マルチメディア、及びコンピューターのサウンドカードとの使用。8020B はアクティブ・スピーカーとして、ドライバーやパワー・アンプ、アクティブ・クロスオーバー・フィルター、保護回路を内蔵しています。

MDE ™（Minimum Diffraction Enclosure）スピーカー・エンクロージャーはアルミダイキャスト製で、エッジ回折を低減するように形成されています。先進の DCW ™（Directivity Control Waveguide）との組み合わせによって、このデザインは音響的に良くない部屋でも優れた周波数バランスを提供します。

必要であれば 8020B の低域特性は GENELEC 7050B サブウーファーを使って補強できます。

配置

電源コード、固定金具 1 式、取扱説明書、セットアップガイドが付属しています。

開梱後、音響軸（**図 1** 参照）のラインに注意しながら 8020B を必要な位置に配置し、すべてのスピーカーの音響軸が聴取位置の頭の位置で 1 点に集まるように調整してください。

接続

接続する前に 8020B と信号源の電源を切ってあることを確認してください。8020B の電源スイッチは背面にあります（図 3 参照）。付属の電源コードを使って 8020B をアース線がつながっている電源ラインに接続してください。未アースの電源には接続しないでください。またアース線のない電源コードは使わないでください。

音声入力は INPUT と表記された 10 kΩバランス式のメス XLR コネクターを介しています。ピン 3 がアンバランスのソースのコネクター側でピン 1 にショートされていれば（図 2 参照）アンバランスのソースも使用できます。パワー・アンプや一体型 AV アンプやレシーバーなどのスピーカー出力には 8020B を接続しないでください。

接続が完了したら 8020B の電源を入れることができます。

音量調節

8020B の入力感度は前面の音量調節ノブを調整することで音声卓や他の音源の出力に合わせることができます。

トーン・コントロール

8020B の周波数特性は背面のトーン・コントロール・スイッチ TREBLE TILT、BASS TILT、BASS ROLL-OFF を設定すれば音環境に適するように調節できます。

調節の効果を分析するのには音響計測をお薦めしますが、計測システムが利用できなくても適当なテスト録音を使って注意深く聴けば充分な結果が得られます。**表 1** は様々な状況での典型的な設定例を示します。**図 4** は無響室特性です。

- **TREBLE TILT（SW1）：**5 kHz よりも上の高域のレベルを約 2 dB だけ減衰させます。これは高音がきついのを和らげるのに使えます。
- **BASS TILT：**2 kHz よりも下の低域のレベルを 3 段階、-2 dB（SW3 ON）、-4 dB（SW4 ON）、-6 dB（SW3 & SW4 ON）で減衰させます。これはスピーカーが床や壁面の近くに配置される場合に必要です。
- **BASS ROLL-OFF（SW2）：**GENELEC 製のサブウーファー（7050B/7050A）のローパス・フィルターを補うために 85 Hz でのハイパス・フィルタリングを作動させます。8020B をこのサブウーファーと一緒に使う場合はこのスイッチは必ず ON に設定してください。

平坦な無響室応答を提供するために全トーン・コントロールの工場設定は OFF です。必ず全スイッチを OFF 位置に設定することから調整を始めて、設定の組み合わせをシステマチックに変えながら測定・試聴して最良の周波数バランスを見出してください。

表 1：様々な音環境に対するトーン・コントロールの推奨設定

スピーカー取付位置	TREBLE TILT	BASS TILT	BASS ROLL-OFF
音響反射のない無響室	OFF	OFF	OFF
吸音処理された部屋でフロアスタンドに設置	OFF	OFF	OFF
音響反射がある部屋でフロアスタンドに設置	OFF	-2 dB	OFF
ニアフィールド / 音声卓のメーターブリッジ	OFF	-4 dB	OFF
背面と壁の距離が近い場合	OFF	-6 dB	OFF
7050B サブウーファーと併用する場合	OFF	-6 dB	ON

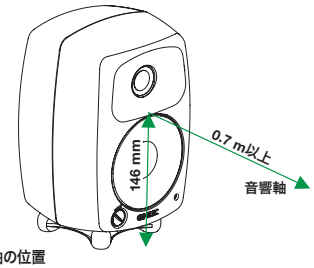

図 1：音響軸の位置

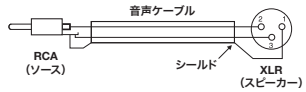

図 2：アンバランスのソースを使う場合に必要なケーブル（RCA 出力から XLR 入力への例を示す）

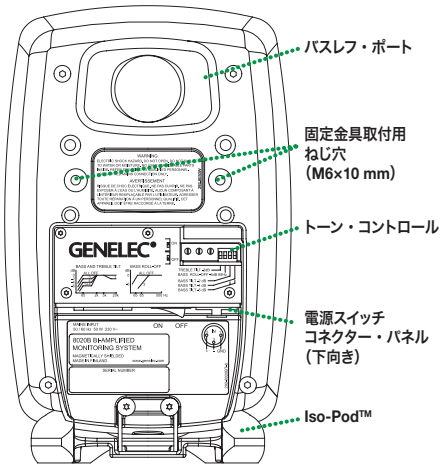

図 3：8020B 背面のコントロールとコネクターの配置

マウント設定時の注意点

- **向きを正しく：**必ず音響軸（図 1 参照）が聴取位置を向くように配置してください。クロスオーバー周波数周辺での音の干渉問題を最小限に抑えることができますので縦置きをお薦めします。
- **左右対称を保つ：**8020B が聴取位置から左右対称かつ等距離に置かれていることを確認してください。可能ならば聴取位置が部屋の中心線上に来て、8020B が中心線から等距離になるようにシステムを配置してください。
- **音反射を最小にする：**8020B に近い机や棚や PC のモニター等のような物体からの音反射は音像の不要なカラーレーションを引き起こすことがあります。反射音は 8020B を反射性の表面から離して配置すれば最小に抑えることができます。例えば音声卓の奥に卓よりも高い位置になるスタンドを置いてその上に 8020B を乗せて、音響軸が聴取位置での耳の高さになるように 8020B を傾ければ、通常は 8020B をメーターブリッジ上に乗せるのよりも良好な結果が得られます。

8020B を本棚のような限られたスペース内に設置したり壁面構造内に組み込む場合は、アンプを十分に冷却すること、ならびにバスレフ・ポートを機能させることを確実に行ってください。

8020B の周囲は、背後と上及び両側に最小 5 cm の隙間を保って、必ずリスニング・ルームに対して開放されている必要があります。アンプ周りのスペースは、周囲温度が 35°C を越えないように、熱を放散するための通気が確保されているか、あるいは充分に広い必要があります。

設置方法の選択肢

8020B には設置方法がいくつかあります：Iso-Pod ™（Isolation Positioner/Decoupler）を使えばスピーカーを傾けて音響軸調整が可能です。8020B 底部には標準マイク・スタンド互換の 3/8" UNC ねじ穴があります。背面には Omnimount® サイズの 20.5 ブラケットまたは鍵穴型壁面マウント・アダプター（8020B 付属）用に M6×10 mm のねじ穴が 2 つあります。なお、マウント・アダプター、ねじ 2 本、ワッシャー 2 個は 8020B に付属しています。

保守作業

アンプ・ユニット内にはユーザーが交換可能な部品はありません。8020B の保守や修理は資格のあるサービス要員にお任せください。

安全に関する注意事項

8020B は世界的な安全規格に従って設計されていますが、安全な動作を確実にするため、また 8020B を安全な使用条件下に保つためにも以下の注意事項はお守りください：

- 保守や調整は資格のあるサービスマンが行ってください。本機を分解しないでください。
- 電気的な安全性が損なわれかねませんので、未アースの電源コードや未アースの電源接続と共に本機を使わないでください。
- 本機を水や水分にさらさないでください。液体の入った容器（例えば花瓶）をスピーカーの上や近くに置かないでください。
- 本機は恒久的な聴覚障害を引き起こす可能性のある 85 dB を越える音圧レベルを出すことができます。
- 十分な冷却を保つために本機背面には空気が自由に流れることが必要です。本機周囲の空気の流れを妨げないでください。
- 電源コードをアンプまたは電源コンセントから抜かないかぎりアンプは AC 電源から完全には切り離されません。

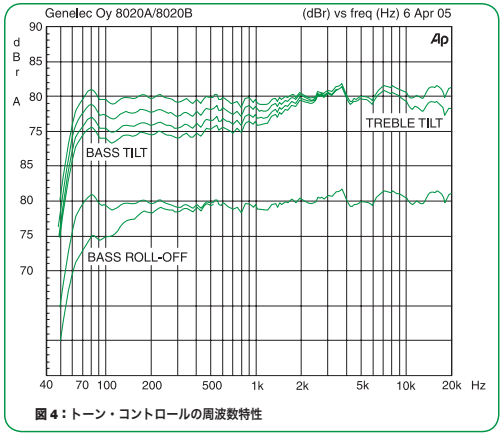

図 4：トーン・コントロールの周波数特性

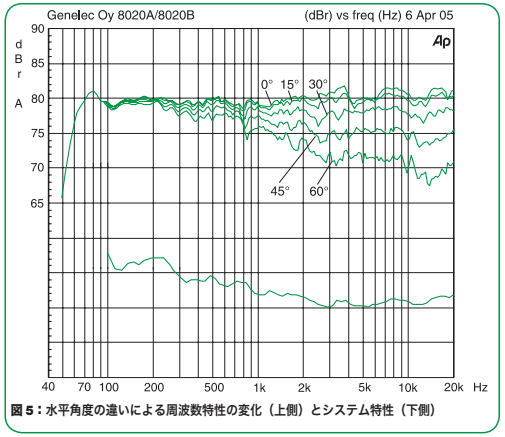

図 5：水平角度の違いによる周波数特性の変化（上側）とシステム特性（下側）

システム・トータル特性
低域カットオフ周波数（-3 dB） ≦ 65 Hz
高域カットオフ周波数（-3 dB） ≧ 21 kHz
周波数特性　66 Hz ～ 20 kHz（±2.5 dB）
瞬間最大音圧レベル（100 Hz ～ 3 kHz） ≧ 96 dB SPL（@1 m）、≧ 102 dB SPL（@0.5 m）
定格音圧 ≧ 95 dB SPL（@1 m）
ミュージック・パワー ≧ 105 dB（@1 m）
残留ノイズ ≦ 10 dB 以下（A-WTD）
高調波歪（@1 m、85 dB SPL） ＜ 3%（50 ～ 100 Hz）、＜ 0.5%（100 Hz ～）
ドライバー・ユニット（防磁）：
　ウーファー= 105 mm コーン型
　ツィーター= 19 mm メタルドーム型
重量　3.7 kg
外形寸法（W×H×D mm）　151×230×142（Iso-Pod 付き高さ= 242 mm）

クロスオーバー・セクション
入力コネクター　XLR メス 10 kΩ、バランス（2 番 Hot）
入力感度　-6 dBu（@ 1 m 位置で 100 dB SPL、音量ボリューム MAX 時）
ボリューム調整範囲　-80 dB ～∞
クロスオーバー周波数　3.0 kHz
Treble tilt 可変量　0 ～ -2 dB（15 kHz にて）
Bass roll-off 可変量　-6 dB @85 Hz（7050B サブウーファー併用時に使用）
Bass tilt 可変量　0、-2、-4、-6 dB（@100 Hz）
工場出荷時設定　全トーン・コントロール off、ボリューム Max 位置

パワーアンプ部特性（ドライバー・ユニット保護のため出力制限回路あり）
低域用パワーアンプ定格出力　20 W（8 Ω）
高域用パワーアンプ定格出力　20 W（8 Ω）
歪特性：
　THD　≦ 0.08%
　SMPTE-IM ≦ 0.08%
　CCIF-IM ≦ 0.08%
　DIM 100 ≦ 0.08%
S/N 比（最大出力基準）：
　低域 ≧ 95 dB
　高域 ≧ 95 dB
電源電圧　AC 100 V（±10%）
消費電力　5 W（無信号時）、50 W（最大出力時）

仕様及び外観は予告なく変更になる場合があります。

品質保証
8020B は購入後 2 年以内に製造上の問題が原因で故障した場合は無償修理いたします。修理等については購入された販売店またはオタリテック株式会社にお問い合わせください。

オタリテック修理窓口
　〒 169-0051 東京都新宿区西早稲田 3-30-16
　オタリテック株式会社　技術部サービス課
　TEL 03-6457-6022 ／ FAX 03-5285-5282
　電話受付時間　平日 9:10 ～ 17:50

修理依頼時の確認事項
1. 型番 8020B（ハチゼロニーゼロビー）
2. シリアル番号（本体背面に表示）
3. 購入年月日 / 製品登録カードの有無
4. お買い上げの販売店名
5. ご使用時の電源電圧
6. 故障の症状

この取扱説明書はフィンランド GENELEC 社の許諾を受け、オタリテック株式会社が英語版 “8020B Operating Manual”（2009-05）を翻訳・編集したものです。当社の許可無く複製すること、及び取扱説明書本来の目的と異なる用途に使用することを禁止します。Japanese translation ©2009, 2011, 2012 Otaritec Corp.

日本語版アクセサリー・カタログはオタリテック株式会社ウェブサイトの GENELEC ページからダウンロードできます。

GENELEC 日本総代理店
オタリテック株式会社
〒 169-0051 東京都新宿区西早稲田 3-30-16
TEL 03-6457-6021 ／ FAX 03-5285-5281　www.otaritec.co.jp

OTS3-213

8020B

Operating Manual
GENELEC 8020B
Active Monitoring System

GENELEC®

オタリテック株式会社

Ed1.1 2011-11